

グローバルな視野でのチャレンジを目指して

—中国、深川で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：中国の深川(シンセン)には何をするために行かれたのですか。

A：(林明夫。以下省略)2005年11月19日から21日にかけて中国政府のきも入りで開かれたボアオ・フォーラムのCEOサミット(BOAO FORUM FOR ASIA, CEO SUMMIT)に参加するためです。

テーマは「世界的視野と挑戦(Global Vision and Challenges)」でした。約340名の参加(日本人はほんの数名)で、使用言語は中国語と英語でした。私は中国語ができませんので、英語で参加しました。

Q：ボアオ・フォーラムとは、どのようなものですか。

A：民間が主催する国際会議としては、毎年1月下旬にスイスの「ダボス」で開催される「ダボス会議」が最も有名です。正式には「世界経済会議(World Economy Forum ワールド・エコノミー・フォーラム)」と呼びます。この所謂(いわゆる)「ダボス会議」には地域版があり、これらもまた毎年開催されています。私も、東アジア版、中国版、インド版にはここ数年ほとんど毎年日本代表として参加させて頂いております。

この「ダボス会議」は、ダボスでの年次総会、世界各地での地域版共に議論の質が極めて高いため、世界の経済人の中では最高に近い評価を得ているようです。これに対抗するという意味ではないでしょうが、中国政府は世界経済をリードするために、ダボス会議にまさるようなアジアでの国際経済会議を中国にある海南島のボアオでスタートしました。

私が今回参加したボアオ会議は、CEO、つまり国営企業や行政トップも含めた企業の経営責任者のためのものでした。

Q：なぜ、日本人である林さんが中国の代表的な会議に参加されたのですか。

A：毎年4月に海南島で開催される「ボアオ・フォーラム」の年次総会には、日本からも小泉首相や経済団体代表が多数参加するのですが、アジアや中国の経済について実質的な議論を深めるこのCEOサミットには日本人がほとんど参加しないため、日本の立場を表明する人が少ないと考えたからです。

Q：発言のチャンスはたくさんあるのですか。

A：フィリピンの元大統領ラモス氏がこの会議の世話人の代表でもあるためか、会議の雰囲気は極めてオープンかつフランクで、発言はまったくもって自由です。中国国内だけでなくアジア各国からのマスコミが参加者とほぼ同数ボアオに入り、積極的な取材を展開していました。私もTV局や新聞社からのインタビューを何度も受けました。

Q：会議では、どのような内容が議論されたのですか。

A：世界的な視野に立ちどのようなチャレンジつまりイノベーションを繰り返しながら企業や地域経済を活性化して人々の生活を豊かにするか、さらに具体的に言えば、どのようにしたら一人当たりのGDPを上げることができるかという内容です。

タイのタクシン首相は、行政も企業でイノベーションを行い、どう効率化するかということについて訴えていました。

とりわけ、中国の国営企業や中小企業が企業としての社会的責任(CSR)を果たしながら、どう生産性を向上させて中国の貧困を撲滅するか、そして同時にアジアや世界経済の発展に寄与するか、若いリーダーの果たす役割とは何か、今後中国で都市に集中すると予測される2億人に近い人々を支える社会インフラをどう整備するか、エネルギーをどう調達するかなどについて熱心に話し合われました。

Q：ボアオ・フォーラムに参加した林さんからの学習塾や予備校、私立学校の経営者の皆様に向けてのメッセージは何ですか。

A：中国はじめアジアの国々では、これから自分の国や地域、自分の企業をどのように経営するかということについて、経営を担当する経営幹部は「高い志(こころざし)」を持った者同士が励まし合いながら国際的な視野をもって熱心な議論を繰り返し、あるべき姿を目指してチャレンジをスタートしようとしています。

我々も「高い志」をもつ仲間たちと励まし合いながら、世界的な広い視野で真正面からものごとを考え、自らの「社会的使命(ミッション)」を果たすためにチャレンジをスタートせねばと痛感しました。

Q：最後に一言どうぞ。

A：日本を含めアジア各地で重要な国際会議が頻繁に開催されているにもかかわらず、日本からの参加者が余りにも少なく、主催者も参加者もさみしく思っている場合が少なくありません。この文章をお読み下さっている皆様も、ご自分の問題関心のある分野につき質の高い国際会議をインターネット等でお探しになり、年に1～2回はそれらに参加なされてはいかがでしょうか。ご無理のない範囲で会議での様子を児童・生徒や教職員、地域の皆様にお伝えするのも、教育機関の経営者の役割の一つと私は考えます。

皆様はどのようにお考えになりますか。

— 2005年12月22日記す —